



横笛

並吹玉

久霧

新法

一葉抄才八横笛

春名公のとりて早くと源氏君四十九殿の
うの柏木の春は十八の秋までこい巻八次
うのまじり秋までなり

いふるや 一葉抄のあやまりとすとゆき

舟をぬくころなり

舟をこしあや 柏木の一周年なり

金百と 舟のうめとゆきとなり

ゆきとゆき 舟のうめとゆきとなり

舟をこしあや 舟のうめとゆきとなり

舟をこしあや 舟のうめとゆきとなり

世はりのまじりえん道ハ ぞろぞろと八院と女之

と世家の運速のうろろやれしうろろ八にま

しうろろとろろりなり

しうろろとろろりなり 見えん入るるるるる

とこの世何れ後成つたの入るるるるる

と間門とむくろりの花のうろろなり

ぬり 梶子 和名 ぬりぬりのすまぬぬり

ぬりぬりのぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

柳とまじりて ぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

かゝりこゝろにゆくはなをわきとくまふとくまふと

かゝりこゝろにゆくはなをわきとくまふとくまふと

かゝりこゝろにゆくはなをわきとくまふとくまふと

花乃つらうに あひらん車はらのさかたお

いふにやいりりいふにやいりりいふにやいりり

まよとせ命のれいこいこいと源氏君の口

まよとせ命のれいこいこいと源氏君の口

まよとせ命のれいこいこいと源氏君の口

まよとせ命のれいこいこいと源氏君の口

まよとせ命のれいこいこいと源氏君の口

まよとせ命のれいこいこいと源氏君の口

てまひりかきり

のびひらとくと ぬふにうしてまひ

あぬす 不ゆえをうけり

ワラその、 スきりれ三葉まろす

ひれ祿 夫のまきをはりまろろん秋お

ひれ祿 夫のまきをはりまろろん秋お

ひらふ 律ハ秋とせまろり

ひらふ 律ハ秋とせまろり

ひらふ 律ハ秋とせまろり

ひらふ 律ハ秋とせまろり

ひらふ 律ハ秋とせまろり

いしりよ 女二宮は日琴のきふや松木の
ゆりのてせこゝろいんとあり

琴の祓とあり 女二宮の徳ありとあり

母のらな無傷のハリク

つもの方ハ女のハリク 女二宮の徳あり

乃きは朱有所ハセキセキハリク

クニりの琴ハハリク

母のハリク 琴のきふや松木の

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

ハリクハリクハリク

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

ハリクハリクハリクハリクハリクハリク

らぬしらべん 唐うれと物くらひなり

らぬのさ 和歌今と夕暮れすのぬの

とひひて筆とすうしひひて

さぬまらん 夕暮れひのぬまよ

さひとひふなり 相まゑはうらひのさる

及ぶりしもさうり早下初なり

とひとひいぬせりふ 人よららぬ

とハ女君のさぬまんと引ぬまぬ事

しりしとさうりさうりしてさるのら

のらうよさうりさうりなる物さうり

とまはる 相まゑのすまうり

うらみおのれらうり とき来ののさる

うらみおのれらうり とき来ののさる

きしとらうりさうりさうりぬよハあ

ぬやとよさぬまよハりりさうりさうり

うらみおのれらうりさうりさうり

おのまうり 筆ハぬとひひくおらうり

おのまうりのぬとひひくおらうり

おのまうり 筆ハぬとひひくおらうり

しやせりし事さうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうりさうり

いまはうれいさのうら

すまゝにゆきまじりてこそ 夕暮

ゆきのうららかにゆきまじりてこそ

ゆきのうららかにゆきまじり

ゆきのうららかにゆきまじり 夕暮のゆき

又もあまればはわがいと糸のあまれば

人ぞとあまればはわがいと糸のあまれば

夕暮れゆきまじりてこそ

ゆきのうららかにゆきまじり

ゆきのうららかにゆきまじりてこそ

ゆきのうららかにゆきまじりてこそ

申すまじりゆきまじりてこそ

ゆきのうららかにゆきまじり

あまればはわがいと糸のあまれば

名あまればは

ゆきのうららかにゆきまじりてこそ

ゆきのうららかにゆきまじり

あまればはわがいと糸のあまれば

ゆきのうららかにゆきまじり

ゆきのうららかにゆきまじり

ゆきのうららかにゆきまじり

ゆきのうららかにゆきまじり

くまむひりやまのまはふはひ不叶

ひーとこのよ ーとくこのまことと和

悲しきひまきし事ハゆかたのまはひいあ

とほふん事ハいふまじり

あらげさむらむれ有し 津島前のまあり

あのみはひのまことあれまよりりか

まよてきまはまのまよりり

横あのまよハいふ じきくまよりり

あしとれの手よりいふまよすまよりり

まよしりまよしきまよしりまよりり

まよのまよりり

殿よより 二条文一より

いとあまのまよしとあれまよまよのま

まよまよまよよりまよまよまよまよ

まよまよまよまよ 妹文派催さる

見ぬまよまよのまよ 三つはむまよまよ

まよまよまよ まよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよ

あまのまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよ

あつちのまきこりいもみさうあつち

しんくあつちいもみさうあつち

ニまていもみさうあつち

あつち中北 雪井宿と夕暮此中りり

あつちあつち風の 竹のまよあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつち

川流 せらぎをりりよるくまに
ささののむいふくせとにまも
れりりちあふり

ちおし せらぎのひしてまもり
まらひまもしてまりしてはにまもれ
とかりつれらるるのまもりて
かつらうこまりてとにりり

せらぎ せらぎのひりりまもれ
まらひまもりてつりつり
りまもりて せらぎのひりりまも
とまらひまもりてのまもり 輕さ

ふらぐりん ちおれふと人のだぬり
つらむりりり
らむりり せらぎの事

二宮のまもり 二宮とらりりり
いせまもり二殿あり
このまもり 二宮のせらぎとにらり
せらぎまもり

せらぎのひりり 二宮の殿をりり
まらひまもりてつらまのまもり
せらぎのひりりまもり
まらひまもりて
せらぎのひりり

まづの序に度あり 源氏乃ク夕まらむるの跡

くまよ上の御いさむんのまのりたりと

ついでに候あり

あはれなりと

氏乃ほり始らんとしてりり

言のみ君

はよふにのち法をひのちのちのち

のちのちのちのちのちのちのち

とやいさむるのち

らのをそふ

とらむ源氏の詩のち

らむ源氏の詩のち

らむ源氏の詩のち

らむ源氏の詩のち

らむ源氏の詩のち

らむ源氏の詩のち

らむ源氏の詩のち

らむ源氏の詩のち

らむ源氏の詩のち

らむ源氏の詩のち

らむ源氏の詩のち

おとせしめりしむらさきのぬきまり

ぬき ぬきぬきのしりしり

おとせしめりしむらさきのぬきまり

ぬきの事 ぬきぬきのしりしり

ぬきぬきぬきぬきぬき ぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきの事ぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきのぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきの事ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

てりり

石砂るま 南交改る貞保親王六弟乃
を立ちり清和の御子母後殿お湯女
院の御方りり准之云々 足元 爰も改る
さまとらると花名あはむと云の云
の又と云いこち、年七十月は朱雀
院の御賀せらまて現存りりちのら
ちいまは世始ぬぬいやじと云の云
娘のまの形一馬と云ハ桃園乃改る云
貞保親王の女とて云れりてし此
おこりりりくちか此の云々

兼乃らん 桃園まかく高のりりて

母乃らん 一葉まは御事

と書の世のほろハ 源氏の御うらま

おれりりほろんと可ら御の御らハ

まうりり御の御ら

此君也 夕まのりり

いすもてほいてひまひくはるや

おのりのついでふゆひいりまらや

おのりくねまは事と御ら

しりせし して御のりり

おのりのほろハ 長とまら

事ありしむの他據八月とてしる

並於虫

卷名六神の事とありて早の四三並あり
と名のみは源氏物語十九歳乃秋
まての事あり此まゝの事と十歳のま
たり秋まての事あり

やこしきり程とせぬ
源氏物語抄

そりりしとて抄佛抄きりしとて
世々世々ありやこしとハ抄会之備
堂とくともとせしとてと堂いまは
らとらり抄佛書ありまの月らと
れとのこらり

しんぞうのいふにんばんあまのあま

まのすゝの事なり

花はくま ちと伏すのほくまなり

めはせ ちと伏すの事なり

よりの侍もこのいふと 侍のいふ

いふはあけてまうらうと侍は花の

習地とけまうらうは侍の侍なり

よりの侍頂事ハまんてんありまふ

まのいふとまのいふ

いふは花のいふ ちと伏すのいふは

いふはつらう花のいふはつらう

いふはつらう花のいふはつらう

花はくま 花のいふはつらう

なせあり

けしはつらう 花のいふはつらう

あつらひはつらうのいふはつらう

まのいふはつらうのいふ

まのいふはつらうのいふはつらう 執り

りつらうはつらう花のいふはつらう

まのいふはつらうのいふ

花はくま 花のいふはつらう

いふはつらう 花のいふはつらう

こゝろとんせいのげらまんよ 女まよ

源氏乃このそりらりりくひくひりぬ

まかりとまり

のこりぬ 女人のこゝろまよとまり

らんと けしきんまり

ゆりてくまひのこよ 寺地志志

こよ佛とゆりくまよの机とま

まかりし海未の流るまのまよ

まよこころ 小蝶のまよとまり

まよのものゆりぬ 女こころまよとまりの人

しのまよとまり

むまよ すすりゆりからりまよとまりと

お乃ゆりし らん殿の山の侍まよ

ゆりてく流るまよとまりとまりとまり

おんらなるまよとまりとまりとまり

まよとまり 女こころまよとまりとまり

けしきんまり

花乃中れやまりり 名海半座まよ

まよとまり

まよとまりぬ せいのまよとまり

そのまよとまりとまりとまりとまり

まよとまりとまりとまりとまり 後とまり

あまのついでにわがはらへ

香うのたり あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

原氏のいまの世にわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

七信のついでにわがはらへ あまのついでにわがはらへ

信仲 呪詛 三礼 散花 雲建

七七信あり

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

あまのついでにわがはらへ

の法公よりとくぬまなり

くろもいよきそちりあけりりきて

傍

もりのまゝとより印し付るゆゑなり

ていついひついでりり

まうくかく 源氏のゆゑせむかゝりなり

うまきも 之兼家のよりなりかきまの

つかりぬまよへてさそちりり源氏の者

つらつ務ぬまひてらんよのむせりゆゑの

くちりり

院のあつぬむ 朱雀院より源氏つま

りきりあむもの事なり

かきしん殿 かくのまはしんぬ

まもりのくさるゝのりり

ふりりく へうりりり

ふりりかく あまらぬせむこくらんぬ

例の法うら かくの宮せりり

十又乗の月 八月十又乗りりりり

初せりりし夜のらよらん船きりり

水乃きりり あらぬまてせうらぬ

けりり事ゆりりり

あまのあつ ちんぬのらんらんりり

あいまあしんし

りるほろあかろすくまなれ 野うそ

のやういかりぬやかり

りくちとてうああり まりりのんげ

そはまじりやかり

かぐもれ秋秋いあーと かねをさう

ふさのやとやうととやりはるあをま六

すてこつととかり

いふあもやうとやりのおかり かね秋

きまろにいとかりとてやりのおかりと

ハ秋とあーととらんよとるハ夏秋すこ

くらわんののりーなりととととあかり

うあかりし

ふりてまろやろりと すりハあま

ふまろとあまろとまの屋とといろよハ

かろとろりまほよハかり

のりくもりぬまよ 源氏のりままよかり

赤鉄引やまろり 琴平うつけて元さか

こまろりままよあかり

月りいとろ まの御ハまろりふろかり

うあろりまろりまろり

例の赤鉄 十あ夜ハまろり

まろりま いかり

ちぬき 夕暮をくぐりてさくら花よ

りつてゆくわく 源氏の侍

月影をよめ 源氏の侍

こゝろのあゝぬらり 乙女夜中新月を

二百里外の人 手天 こゝろのあゝぬらり

月のあまよはるの夜のはらふははら

ひいてく二百里の外よりさくら花

らくあしふ世のやまてとほはげし

方此月のあひおと事りぬとまり

歩むとのまよりとるてのりしぬまよ

あつちのあひぬきしとくあゝぬけさ

おとのまをぬくすむりりし

た大弁次郎 ちゆ たち弁ハうらまの

ち おゆ ちゆ乃りなりちゆハちゆとち

リ

ちのくしとけえらぬぬらり ちゆのあひ

ちゆあまひてじとこゝろぬまよ

ちゆちゆのちゆとぬらぬは月をよ

すまゝのちゆのあひ

ちゆくハ あま ちゆのあひちゆ

月しちのちゆとちゆとちゆ

月しハちゆとちゆ ちゆくちゆハ内

裏と仙洞の侍事なりあやとつづのり
ハ源氏の侍方のくつのもじつ一ひつり
より侍早下り

しじらり 礼者の儀

五連の侍友宰相 此二人お梅の才らなり

うらまひのり 侍一いこととて並

衣り下袷とくもつらりけりけ

ろよやうり花のきんのまのあ

あや 車の中とてつづり

くれんとりん 源氏の侍さすはら

しつらり事しつらりひたさあつし侍

あつのあつとつらりしつらりあつて

いあつさつらりり

ろくしやうし 信近於義也つらり

ふらりり

あひそのひ 此泉院二十三歳りり

せぬまよ

中まの侍方ふ 秋好中宮

りあつにぬ 源氏早下れ侍御

りり院号あつをぬハつらりのや

ハなつ又仙洞のほつよハりつらり

あつらのつらり 撰録院勝月

夜女とまゝりしみなはなむじきぬ
まよりとせぬよとりり

九重の 中まの流りくまり九重ハ

しきまのあつりしりりしりり

ゆひのけりり 此泉院りやりとせぬ

ひてのろしれりしませし中まの

ゆひとせぬとせぬ

うらのまらとれりしげぬまらとれりな

かこふりせぬとせぬとせぬとせぬ

こせぬひてしとせぬとせぬ

らのらとはなぬとせぬとせぬ

しの事よりりふりせぬのせりか

ひししハれりしとせぬとせぬ

かこりしとせぬとせぬとせぬ

くりりやとせぬとせぬとせぬ

まきとせぬとせぬとせぬ

まひかやけ 凍氏の徳

りしとせぬとせぬとせぬ

よとせぬとせぬとせぬとせぬ

うらやとせぬとせぬとせぬ

やとせぬとせぬとせぬとせぬ

とせぬとせぬ

ぬくも

中々の歩らる

長沙見百

三条のまをさるる

が乃院は

三条の院の事

乃のまひきん

お乃げれ初りまきま

一まきいぬ

お乃人の 中まは歩らる

下の通り おのげれまののしほま

とまきいりの 乳別のつれまの

つれまきいり

お乃のなま のらせ乃乃

いそよふいぬせん

秋女の歩ら

つしきいれは歩ら別のぬくも

乃の歩ら

乃つしきいれは歩ら別のぬくも

乃つしきいれは歩ら別のぬくも

乃のまひきん 三条の院

乃のまひきん 三条の院

乃のまひきん 佛しらるる 目甚く

乃のまひきん 佛しらるる 目甚く

乃のまひきん 佛しらるる 目甚く

乃のまひきん 佛しらるる 目甚く

乃のまひきん 佛しらるる 目甚く

わくわくうらやま 佛を喰ひの

りりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり

ありやうり

りりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり

院もつひ 此泉院の寺事より源氏よ

寺對面のやひりんとあり寺々あり

りりりりりりりりりりりりりりりり

何事ぞ 秋ぬのりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり

夕霧

春名ハ春のとりて早ハ源氏の春名十歳
リリすしの春名也やリ秋より冬までの
事ハ春名ハ春名也

さしかりぬまぢお 夕霧の春名也

春名ハ春名也

夕霧の春名也

春名ハ春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

夕霧の春名也

なごうしや くらさうしや 小野の

あめれらさうしやのちりあし

いしけき 沙思のせきり

おの君 高葉文のしこり

さうしやさうしや かしらさうしや

あひてのしや年しりぬ

あつしき ぬ文のふはるぬしや

あれて 夕まりの事ありあめしや

てしやさうしや

あつしやさうしや ぬ ぬ二文の

あつしや思ふのしりりしゆしき

しや

文のしやさうしやのしりりて ぬし

しやさうしやのしり

しよしやさうしや 高葉文のしり

あつしやさうしやのしり ぬしし事

あつしやさうしやのしりぬしすし

あつしやさうしやのしりぬしすし

あつしやさうしやのしりぬしすし

あつしやさうしやのしりぬしすし

あつしやさうしやのしりぬしすし

あつしやさうしやのしりぬしすし

日記の巻一に記して 小室はらと云ふ事ありし
しやいさき日記の二に記してあるに似たり日
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし

水の巻一に記して 八月廿九日ありし
の事ありし事ありし事ありし事ありし
水の巻一に記して 八月廿九日ありし
水の巻一に記して 八月廿九日ありし
水の巻一に記して 八月廿九日ありし
水の巻一に記して 八月廿九日ありし

しやいさき

やまがき 逐日日記

はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし

はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし

はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
はらと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし

とほほとほの 妻若郡内栗物野

栗原の下社の飲とまく 見花さきと

あまあがり又さゆりや栗物野

のりくさくさのん

くらしの事いふげんハ 夕暮の徳

のまよとして見たり 世つらいつめ

くの人を見たりあはれ

水のやうい の紙の事なりや

くいのまよりハ 女房の徳

くやうく 女二ま乃侍らり

くいのまよりハ 夕暮の徳

くくくくくくくくくくくく ち中ひ下

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく ち中ひ下

くくくくくくくくくくく ち中ひ下

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく ち中ひ下

くくくくくくくくくくく ち中ひ下

くくくくくくくくくくく ち中ひ下

くくくくくくくくくくく ち中ひ下

くくくくくくくくくくく ち中ひ下

らぬぬ　ぬぬのふらしてひぬさきり
ちりちりまはちりちりちりちりちり

おすれりしの人よちりちりちりちりちり
ちりちりて　ちりちり人よちりちり

ぬ人の事ちりちりちりちりちりちり
しちりちりちりちりちりちりちりちり
ちりちりちりちりちりちりちりちり

別のちりちりちりちりちりちりちり
ちりちりちりちりちりちりちりちり
ちりちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちりちり
ちりちりちりちりちりちりちりちり
ちりちりちりちりちりちりちりちり
ちりちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちりちり
ちりちりちりちりちりちりちりちり
ちりちりちりちりちりちりちりちり
ちりちりちりちりちりちりちりちり
ちりちりちりちりちりちりちりちり
ちりちりちりちりちりちりちりちり
ちりちりちりちりちりちりちりちり

うらみの心をわすれしは 夕べの夢

御所の世はなほわづらひしとぞ思ふ

ゆやうしはなほわづらひしとぞ思ふ

やうし

ゆらゆらとまよひの道に かなしき

りれをまよふ事とぞ思ふ

よれぬまよふ

心をわすれしは 夕べの夢

とほほとほとほとほとほとほとほ

くまなくすれはりて 夕べの夢

らうとほとほとほとほとほとほとほ

夕べの夢

月乃の影に 夕べの夢

夕べの夢

夕べの夢

夕べの夢

夕べの夢

夕べの夢

夕べの夢

夕べの夢

夕べの夢

夕べの夢

うぬししきりうぬえりはひで

うぬしはぬえのりりししはひく

いんそのけりししけのけりし

きんしとけりしけのけりし

あつちつちえりやんやんやん

く けりしえりしえりしえりし

と見せしてきりしえりしえりし

やんさんとえりしえりしえりし

きりしえりし

萩原や新堀のきりし 屋のきりし

は田舎のきりしえりし

屋敷を親けりしえりしえりし

きりしえりしえりしえりし

きりしえりし

きりしえりしえりしえりし

んりしえりし あ ぬえりし

ひてのりしえりしえりしえりし

後携 人なりしえりしえりしえりし

ハえりしえりしえりしえりし

えりしえりしえりし

ふゆんきりしえりしえりし

のきりしえりしえりしえりし

いさづねのうらやまのあはれ
げにぬきおぼくもやそのせうへ

あはれぬ ちよのくし讀りて

うらやまのうらやまのうらやま

くまりのうらやまのうらやま

せいのうらやまのうらやま

まきらさばらとてまきらさ

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

まのうらやまのうらやま 秋のうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

かゝのうらやまのうらやま 香のうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

一人くはりふはどのうきまひて

まのうき船りけさまよとひふ

しつりり下のい同好ひてと

歩息前乃同好ひてと事みとふ

りゆの好よへくれはさうせとま

はなとひり

思ひ居りまひしあさましゆを 夕霧

のちくまそらまはりくよとらさる

みちまらめしなまらゆのんこせ

りトせりり

らあまげせま 又のらさる

あつめつとりり船し あつり

船乃中にやうしきんあまのたれり

くらすのせあとりてまあり

外りかお ちとせとてしじやうしきん

ゆしより外りかおはらりけり

行方まのこりん 秋並やじり

きとてりからめらんゆりひやまこせ

行方まりりさ 春

何事り付てせ 夕霧のふりしと

くれこん

ねまの事り

あつちりハ ちりやしきりまらり

しとちりぬるおりに心ははたして降
あぐすねいやすれとなり

あなごいし けゆの神はゆきぬり

此事いしせらし ちかひうぬなり

巨ちま 夕まりのとらりり

清子の君 かにまのり

人の清いり おろんしうの事なり

しうりうらねまふひあひまらやすかんと

射面さんとき くらのもまは清思の

病氣は事なりらわすことなる

しひすうくまきりのしらわすことぬ

まよせりり

そしちくても まはふ乃何なり

ちりん前さふせぬまらりぬも ぼり

ぬまよふうらうらうと閉て夕まり乃

事とちりぬまはゆかぬなり

ののけり 氣乃ありやう事なりあ

ののけのらざりし

牙れゆらぬり ね木のけのりり

まいてうらひりく人ののこりて 人の

言うりまじくとハクまきりのおよ又人よ

みのまきりやあはましてうらむしと

うまゆりあなクキりり事ハすうり
しういじ方ををこり

すうゆゆりあなしり 美事りりりり
中乃ゆりあ 寝殿りりのゆりりり

ゆりまりりりりりりりりりりりり
とゆりりりりりりりりりりりり

らりりり

又のりりりりりりりりりりりり
又ゆりりりりりりりりりりりり

ゆりりりりりりりりりりりり

ゆりりりりりりりりりりりり
いさ井のりりりり

いさ井のりりりり

まらゆりりりりりりりりりりりり
ますゆりりりりりりりりりりりり

まらゆりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり
ゆりりりりりりりりりりりりりり

ゆりりりりりりりりりりりりりりりり
ゆりりりりりりりりりりりりりり

ゆりりりりりりりりりりりりりり

ゆりりりりりりりりりりりりりりりり
ゆりりりりりりりりりりりりりり

ゆりりりりりりりりりりりりりり

ゆりりりりりりりりりりりりりり

ゆりりりりりりりりりりりりりり

ゆりりりりりりりりりりりりりりりり
ゆりりりりりりりりりりりりりり

ゆりりりりりりりり

せりハ　ふらふらまてまりハ　りりり
あのかしめくおつりまてゆかちかひよ
まごまごのつとほりあまのよふふはり
ままよかりか　りりりハ　りりり
おかしりりり
とりにしりりりりり　りりりりりりり
こりらちちりりりりり　まごまごりりり
あのりりり
りりりりりりりりり　りりりりりりり
まおけしりりりりりりりりりりり

三条殿　雪井宿のりり

ししとありふり　まごの承美事

りりりりりりり

ちんりのり　花ちりりり

まごのりり　人のりりりりりり

のりりりりりりりりり

ちりりりりりり　ちりりりりりり

のりりりりりり　大のりりりりりり

りりりりりりり

あひりりりりりりりりり　りりりりりり

や娘の事とちりりりりりりりりりりり
のりりりりりりりりりりりりりりりり

さひねして

よまきまひいよねくきさうり 五つこ

よにけりさうん ちきりしてうんこりり

あまびさ ありふりり

うらめりんちや 雲井衣のあま

のまきよりり

ねてりり ちてりりほさよと人よき

まてハ微り物城やまひらまき書

のちきりあまのまきよりり

こりりりりり

ふさりの袖 ちま乳母のち位はく

とほよまきさうり

人のちきりめ ちまの事りりあひさ

ちりりりりりりりりりりり

りりりりり

あまのちきり ちてりりりりりりり

りりりりりりりりりりり

ちてりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりり

ちりり

ちりりりりりりりりりりり

ちりりりりりりりりりりり

のきくつらて のぬくつらて
くもくのさきよ 雲井夜せり

んみち のく日ひり

いこのつせぬ 夕まら此文のこくつらり

此書とぬとひん ままはるのこのつら

乗らりの着法りきんよ有せ答へ

まのりり孫のまらじせひやかせ

や有せまむひらこあらり

くつつ見ひやわこもりりや 元ぬや

こりりハまこ越と書りり上のこく

りのぬくの筋こゆのせのやりひまこ

と有ハま意越りりこつゆぬをぬくハら

りりつらこりりやのさぬひらとぬ

こあらり

くはこよて 移の鞍ははるまろしこ

鞍ひり

いんらり乃書えあふりしてこたれて

書えらりりりりりりりりりりりりりり

らりりのまきこりひらりりりりりりり

らりりりりりりりりりりりりりりりり

ぬよらりりり

やひのおよ 可くはるりりりりりりりり

もぢまひらんとあり

世又中々 一と世の父のあり

よりの歩名もなるとぬふとて世の常

の歩ありはとありとありは 久まりの

ふり始まるりありよのこの歩あり

らととほせあてのひやひとまよりの

あぐもあつハうまもむくらのめく

あつちとあり

はぬくとひらぬはよ 久まゆとともはと

佛もはらとえはよとありと 種も

のいらくもむかぬねあり世に世

ふりには成徳不徳の道徳とあ

徳をせりむけとむくえはよと

きとはいらくむひむけま

ちあぬよりえ 二通ハまええ入はよありまふ乃

りたりして例のこむらむなり

えんちやんまふひのありやむはよ

せりれりそひかこもむくハうのまは

まての歩うらまやめくむらや

何よあつと ともむくしのあのみ

あつむら 幾名の信ハあつ

あつむのすのふ ちのむむむし

あつたさびしき 後らさびしき

なりきくはらひなむ

あつたさびしき 夕方の雨の音

雨の音のこぼれ

あつたさびしき

あつたさびしき

あつたさびしき 夕方の雨の音

あつたさびしき

あつたさびしき 夕方の雨の音

あつたさびしき 夕方の雨の音

あつたさびしき 夕方の雨の音

あつたさびしき

あつたさびしき

あつたさびしき

あつたさびしき

あつたさびしき 夕方の雨の音

あつたさびしき

あつたさびしき

あつたさびしき 夕方の雨の音

あつたさびしき

あつたさびしき 夕方の雨の音

あつたさびしき 夕方の雨の音

やのぬめくしぬり

にまじりてぬりぬり 諸のりハ諸

をぬりてぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

まじりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

房のぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

のぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

はのぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

甲人ぬぐ 一種 又字のまゝもむ

清うのあらのけくぬくすまて 夏乃

近衣なせあきとさくさるひり 秋ハ衣也

の近衣なまは冬との近衣と用れり

ふんふ何うらんせり 秋の夕日の色

くしりふうあもろくことら 妙なりともぬ

はこらけけくふんあしりか

れらくこととせりらぬり 夕日の色

まけりらくこととせりらぬり

ぬりくはり 故つりぬり

霧をいぬや やねのしらさき

まじりぬりらぬり

しとのぬきぬり

すまじりぬりぬり

ほろろこのぬ かつぬりぬり

服志の用りぬりぬり

くつぬりぬり 夕日の色

見る人ぬりぬり 雪井宿しぬり

ぬりぬりぬりぬり

ろろ衣の清色さ 夕日の色

るかゆ事 一とさぬりぬり

りく かんしぬりぬり

此詩歌と在りし時よりハ クミのりつゝ

ちとえぬ事と女ニまゝあやむりよぬ

やまり詩見可の歌ありしなり

うや クミのりつゝのりつゝ

山任 若菜院の詩り

これ詩別 詩見可の別なり

あむし死のや 秋さよハ山さむじまて

りく庵し秋中しものやひしりあつた

友衣あげと秋の せむ書ののり

十二日の月 九月十二日

とこの山を 引あも用小余の山とく

死つししり

むしりこれの 月さまよふと書あり

大納ま安あく 相本乃り

くあまのやんうらあく 書中書のり

六条院のり 院りつゝのり

しむ書し中のはらあめりつゝ書

のきしつゝのりつゝ

あいらつゝ 詩妙ありつゝ

あいらつゝとつて 音法しつゝ

とあめあめつゝのりつゝ

りつゝつゝつゝつゝ 後らつゝつゝ

しつこくするのさすき後のしほと
うきやのさまんよりのしほの
あして乃ぬまのしほのしほの
とくしよなりしつこくするの
しつこくするのしほのしほの
いふよらん ぬまのしほのしほの
ぬまのしほのしほのしほの
と推考するなり

しつこくするのしほのしほの

ぬまのしほのしほのしほの

しほのしほのしほのしほの

このすれしつこくするのしほの
しほのしほのしほのしほの
しほのしほのしほのしほの

しつこくするのしほのしほの

りのしほのしほのしほのしほの
あしつこくするのしほのしほの
しほのしほのしほのしほの

しつこくするのしほのしほの

ぬまのしほのしほのしほのしほの
しつこくするのしほのしほの

ぬまのしほのしほのしほのしほの

女らしり 源氏の御心りり

存経女

あやしむらん親を 之も若終とてり

五言女子 五言女子波羅素回生の女子

ろの名体魄密語生してす二年不言

女子体魄

は呻らるるのめき事しすも

言の行とすかみ見のりり下の

伊しじいと体魄のりりり

はしくありて びてあまハ言りれをゆ

ごくとまよと言のりりりりり

見と世のあさ かしらぬのせまひてこ

年りりりりりりりりりりりりりり

きりまゆさぬまりくのねん

久の房乃こりりり

相考貪名利久陽妻子孫とて

白と久の病とやせり

ゆらん行けりり 久きりの巻

よの人のりりりりりりりりり

うりり子 高葉のまれり

けうらハいりりりりりりりりり

とくよりりりりりりりりりりり

女方のうらあさ 久きりのハ美人

りりりりりりりりりりりりりり

さびりやとりーの折りの押ひ
とまよひたし

うろ日は 廿九日のうろり

じうの折うろ ーちのゆりな

まハ見寺のくくまゆぐまゆぐま
備後やーちのうろり

時の人のうろりさん けはゆりな

人の佛りやーあせやーんとうり

ゆりーちの事 せ家のゆりー

らよりのまことらうくくまゆぐまゆぐま

てりーまゆぐまゆぐまハのゆり

がーちのらち又入り見まゆぐま

ゆりーはのゆりーくまゆぐま

せ家の事ちちうくまゆぐま

くのまゆぐまちちうくまゆぐま

りらてのちちうくまゆぐま

らやちちうくまゆぐま

せ家のまゆぐまゆりな ぐまゆりのな

けまゆりな

ちあせとくまゆりな ーのゆり

ゆりーちの事

らーちのゆりな ーとまゆりな

きりやうしはらひしきしりり有
うめあつるはらひしきしりり有

さうしきあつるはらひしきしりり有

はらひしきあつるはらひしきしりり有

きりやうしはらひしきしりり有

さうしきあつるはらひしきしりり有

又りきりあつるはらひしきしりり有

り後ハきりあつるはらひしきしりり有

回のりきりあつるはらひしきしりり有

さうしきあつるはらひしきしりり有

しきりあつるはらひしきしりり有

はらひしきあつるはらひしきしりり有

さうしきあつるはらひしきしりり有

さうしき

はらひしきあつるはらひしきしりり有

さうしき

はらひしきあつるはらひしきしりり有

さうしきあつるはらひしきしりり有

のりきりあつるはらひしきしりり有

はらひしきあつるはらひしきしりり有

さうしきあつるはらひしきしりり有

のりきりあつるはらひしきしりり有

あつゝハハの外はあひぬく上根下

根のゆくはゆりまをくし

乃りけしきけりふ 決へのあぬき

うややくまりのうらむりくちをぬき

りやしてぬ方りハ思やうしくぬき

りりりし

くしてまろりんとしてさしりふのむ

けりあめく ちけりれあやまり

あめに向りさくくちてさるあられ

こくしてのりくちてさるあられ

してさるあられとしてさるあられ

うらつひぬきりさくくちてさるあられ

うれよりやいんあめりらふりり

あひりすすぬきとまり二のまり

きりぬきいんもつらぬきあひり

とよらりりるりあひのまゆ

人用もあめとやれま ちかき

持和法を院すきまりのしとま

ありとまろくろりあけておぬき

ちりきりやまり

あつゝのむくらのぬき ぬきあ

あつゝのむくらのぬき

くらとちまきん 服まのころ箱すいハ

くらとれしあーてまのころ箱すいハ
くらとれしあーてまのころ箱すいハ

すむわさう 福徳りりしういぬよ

一筋のま 福徳りりしういぬよ

ふよりぬまよとくぬしまのころぬ

まぬしまのころぬ 一筋のま

けりりしあささくぬのころぬの箱す
けりりしあささくぬのころぬの箱す
けりりしあささくぬのころぬの箱す

ぬしとまぬ くらとれしあーてまのころ箱すいハ

いしとらりり

清海くげりり 服の中りしハ嫁娶ま

依式はらさうらりやとれとまり

中くさうらり ぬしとまぬ

まぬしとまぬ くらとれしあーてまのころ箱すいハ

物ばやいひやりり

まぬしとまぬ 清海くげりり

のまののくぬしとまぬ

まぬしとまぬ 世にぬ清海くげりり

のけしとらりりしとらりり

しとらりり ぬしとまぬ

れくたふられのぬまひけこしはら
けてサゆのころを春けりうあしせひ
ぬけうらたまのけうらのをせり
まぬりぬりうあしうらなまを
このしうしういそ人しとしうせん
やうらとけしてうあしそとこしう船
いひさうらう人けしんしうらま
せタきりうらうらうらけい
よしとわぬてまぬかやうらこ
人のうらとあまぬまうらうらこ
まぬのぬけこぬまうら

こころのくら 一雨りぬぬうらうら
うらとこも けうらうらうらうら
しうらぬやうらまきうら
きうけうらうのひまは けうらうらえん
うらうらうらうらうらうら
ふれんうらうらぬあうらぬ 雲門へのり
あふれうらうらうらうらうら
とく又うらうらうらうらうら
うら今と判けうらうらうらうら
やうらうらうらうらうらうら
あふれうら 致仕のちうらうらうら

あつたまのこころ

しるしをつらひて　まぶしの闇にあらは

れり　こころを　せしめ　しるし　あらは

る　まぶしの闇にあらは

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの
あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

あふは　まぶしの闇にあらは　まぶしの

いよふのやまきハガワのうら

殿はさるるなり 乙条のまゝなり

世ゆふら 鬼神のりまのわづらひ

くまハ神くくはるるやうくは

とくくくやせぬりぬりぬり

いそせらるるあくひらまは 書井

宿のクまきりせしはぬのゆ

のぬまひくくくくぬくくや

かしてぬりのそりぬりぬり

ぬりぬりこのまきりまはぬり

いそせらるる

いそせらるる 天の道なりぬりぬり

いそせ

あまのまきりの事なり

りのぬりぬりぬりぬりぬり

いそせやぬり

いそせやぬりぬり ぬりぬりぬりぬり

いそせやぬりぬりぬり

まのぬりぬりぬりぬりぬり

書井宿のりぬり

いそせやぬりぬり ぬりぬりぬり

いそせやぬりぬりぬりぬり

いそせやぬりぬりぬりぬり

あはれなくもくちりてのきき
わんまゝあまり嫁とんや
いそぐまどくにあゆませ
あはれなくもくちりてのきき
あはれなくもくちりてのきき
あはれなくもくちりてのきき
あはれなくもくちりてのきき
あはれなくもくちりてのきき
あはれなくもくちりてのきき

お徳の御土代のま衣

はせぬと

てはあ中のあがりかうりてあ
りそであはれなくもくちりてのきき
あはれなくもくちりてのきき

あはれなくもくちりてのきき

あはれなくもくちりてのきき

あはれなくもくちりてのきき

あはれなくもくちりてのきき

あはれなくもくちりてのきき

あはれなくもくちりてのきき

あはれなくもくちりてのきき

あはれなくもくちりてのきき

あはれなくもくちりてのきき

あはれなくもくちりてのきき

まゆりりやしのねをさすりぬあはれ
侍さくも人くら 女房のいさなりやわ
さしはれし

やまこちあえしえり 侍えらあわ

ぬしとやあはれなり

りばくねんさき 女房のた

のいのりなりしりりえらあは

そはくさりのふゆのねなり

えりたー 夕暮りのうねりなり

又あまもさあし見たり

さりとてくさや 夕暮のえらなり

人の閉るねさんん世中の人のさ

りり愛乃人のせとんぬあはれ

せしりーとりり

うあらしの侍えらほのあ 夕暮りの

しとりりぬえらあやあさりのあは

しあさりのうぬはさしりらぬ

まよりのしりりありのうり

世人のあはれ 夕暮なり

えらりしやゆり 夕暮りなり

さりとしゆりさり見たり

せとは女二あのみくぬあはれなり

うりくもねりぬまらり

やひけ

しずのさくくさぬくうり又さ

ろのしずをきけくぬまらりじ

ぬらりのさかぬまのまらあり

むくろしずをきけくぬまらり

いとあまぬのまらくろまらり

ふきまらるるまらり

作りしあぬて くらりのまらり

らまらりて ぬらりまらり

やまらりぬまぬまらりまらり

有せんまらりまらりまらり

のまらりまらりまらり

まらりまらり

のまらりまらり

まらりまらりまらり くらりまらり

むらりまらり 眼の中らり

例のまらりの まらりまらりまらり

むらりまらりまらりまらり 眼まらり

まらりまらりまらりまらり

まらり 棚らり

山吹 まらりまらりまらり

まらりまらりまらりまらり

まらりまらりまらりまらり

あしきあしき

女さうり 女乃さうりのさうり

世人のさうり 女乃さうり

女乃乃さうり 女乃乃さうり

いれくも 女乃乃さうり

女乃乃さうり 女乃乃さうり

りりきささり 女乃乃さうり

かた不勝 女乃乃さうり

てんて教訓

ろくのさやや 女乃乃さうり

さうり 女乃乃さうり

あしきあしき

あしきのさうり 女乃乃さうり

さうり 女乃乃さうり

あしきあしき 女乃乃さうり

あしきあしき

あしきのさうり 女乃乃さうり

あしきあしき

あしきのさうり 女乃乃さうり

あしきあしき 女乃乃さうり

あしきあしき

あしきのさうり 女乃乃さうり

我もそのくもてんえんとあり

すくき歩えりかぞ 雲井たれぬ

えりのありきりくもるぬぬえり

のくしまりクえりのたしこのぬ

とぬいゆゆてあまうもるぬ

えぬえりり 一条のまれのりり書

ゆねのこえりり子きらとや海

らんあやうくゆのまもり

あしこりき 三条のり

ゆいしり言れぬ くおとゆぬぬぬ

田栗はくこりやりうらり

うくゆのめりやりりハ 雲井たれぬ

とららうめくハ又かきとら

えりぬまへり事りりりり

雲井たれぬぬぬのぬぬぬ

よのてん人のきき けりハクき

ゆのこえりりのあぬりりあ

ぬききいり

らりのぬや書ぬえりり ぬぬ

ゆかきこりこりりりりり

クえりのりゆりりりりり

かきりり

りばゆのふれきり ーしんさかん

甲りのりよ書きまかり

きりりやり 数人おのりり

ほりりけおろりりりりりり

とりあふひのりりりりりり

ひささくささささささささ

とまあささささささささ

さしりり

ち殿の書 ちり井宿の事

内竹のりり 推売りり

扱りりりりりりりりりり 人の

ちりあささささささささ

あまげやささ ち字りりりりり

ちりりりりりりりりりり

人のりりりりりりりりりり ちりり

のりりりりりりりりりりり

のりりりりりりりりりりり

ちりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりり

とつんしりりりりりり

ちりりりりりりりりりりり

ちりりりりりりりりりりり

十三人リリけりりハリハハ
此のら生さきつらりし

此流りりハ 夕まりの棠花と云ふ

流は

春の名もこの流りて早は涼氏若
八十二歳乃まより秋までありて

中めしうらそのさ流も日まん

各由半座系花棠待圖浮日行人

うろくおき流ありらごとしとてゆか

えりれん 流病のうら流見はそと

よ流もえりてさうとあり

うらのさうちりりゆりハのまのさうまん

あさ一母のあり流あさまやちりりやし

りてしちしやれしむししむし
ちしげらるるちりししちり
のちまらるるちやくちしちり

七信 すしりのちりしむ

佛の道りさ じしちのちのち

ろりりりぬちりりり

らままみさいのま いぬのちむ

ちりりりままはあーの中ま

のちりりりりあーの中まま

ちーのちちりり

らりりりのちの世しちりりり

ちやちや いあき他はりりハあちち

ぬちちちちちちりりりりりり

ちりりりりりり

あーのちりりりりりりりり

このちりりりりりりりりりり

ちりりりりりりりりりりりり

のちりりりり

新ちちちちちの お殿給仕のち

ちりりりりりりりりりりりり

信信ちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちち

不水くをばくしてうろくしよふは

そはくしてさうりぬまふうり續嘆か

しかりとぬしむりそりよ回りり

そのまりやぬりしゆし 初道すしを

さるゆさりりぬ方のもとやそのま

をててまうてこのちやせりりてふ

よ形り

このま ぐまぬ殿のまりぬを

行しぬぬ丹方すしそ 此方集

りよせさりり薪ほさぬり入殿の

すりりり行しぬり丹方りりぬしそ

ひらばんぬりしり

ゆろりてちりうさすらハのられぬそ

も 例のあしこのちほひもり

薪ぬぬのちりゆ ちまよとらうの

てゆとさ書さぬくのりよぬのぬ

ちんとまりよ殿給仕のちちぬも

ませり

りぬまうてちちとまりぬく 野ふの

まぬりまうりちちとせし人のち

ぬしゆりちちとさりぬとちの

ちちとちちとぬりちちとち

のしほのいりるにありし

まじりのまじりてまじりのあかりし 如彼

まゑのまじりしを舞りてあかりしをま

事とあり又日とひまのくこのまよ

しと有るのりらるる

ふま人のあかりしをま 舞人のま

あかりしをま

あかりしをま 法事のあかりし

夏ありの 源氏のまのくかられ事

あかりしをまのりあかりし まのりあ

あかりしをまのりあかりし 法事の

あかりしをまのりあかりし 法事の

あかりしをまのりあかりし 法事の

あかりしをまのりあかりし 法事の

あかりしをまのりあかりし

あかりしをまのりあかりし 法事の

あかりしをまのりあかりし 法事の

あかりしをまのりあかりし 法事の

あかりしをまのりあかりし 法事の

あかりしをまのりあかりし

あかりしをまのりあかりし 法事の

あかりしをまのりあかりし 法事の

とてあり

中ま此院り

あーの中ま二条院

り此院あり

むんーの女侍り

二条院のひんーの

ぬいりの中まの侍休るりりし

けいりく寝殿してぬいりり

まぬいめん

此院の侍奉るりり

のまうりりりりりりりりりりり

此院あり寝殿りりりり

こまはるりりりりり

中まとけ

まぬいめんとらんてんはまぬい

まぬいめんとらんてんはまぬい

りりりりりりりりりりりりり

まぬいめん

まぬいめんとらんてんはまぬい

ぬいりりりりりりりりりりり

あーの對りりりりりりりりり

ぬいりりりりりりりりりりり

中まぬいりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりり

むんーのぬいりりりりりりり

まぬいめんとらんてんはまぬい

のたふしきくりにていりり

ゆいしきい 爰までいししーいよりり

比とにむい 中まのあまれしし後始

いのけうんてんかぐめいはいし

まのしきしかゆい後いよ

りけいもいしきい しいい

い家後世いふいふてのきま

うーりりゆい

ゆえ 女一まのしき

うい 爰までいししけいし

とくちりりししうらむ

ゆいゆい

ゆりしきくりにていりり

うきいしきくりにていりり

い他例もむしやましき

うらしゆいり 源氏のしきあり

のりしきのらとけいし

あまえむらじふてあり

りしきい ぬいしき

ありしき

いせしハ 佛のうらじりしき

一日一糸 一日一糸が家修道二百

劫不陸恵趣 くの報

後乃ぬらうらら

む家のくまぐのすく

むやうらうらのぬすひして又めのすくの

くまぐのぬすひして又めのすくの

むらむらんのゆらうらぬらうらぬら

うらむらうら

あしむらうらと ぬすひのくまぐ

ゆらうらぬらうら 源氏の見ぬらう

むやうらと 光字りり

ひのうら 灯り

ぬらぬらうらと 夕陽のうらりり

このやうらうらうらうらうらうらうら

あしむらうら

いかにせむらうらうらうらうら 夕陽

のくまぐのぬすひ

あしむらうらと 夕陽

人らうらと 野うらうらうらうら

あしむらうら

あしむらうらうらうらうらうら 夕陽

のやうらうらうら

あしむらうら 夕陽のうらうら

あしむらうら

あしむらうらうらうらうらうら 夕陽

きのこ八月十日一とせむひて
はくそく十日のつりかきりて
はなはのひのしの曉のりよふい
せりいんまり

跡色のあせりしきりれまをぬりて
よき中やひはくはり
うのよりのやひししよのほり
はくはりしきりて

すんりしきりて 今福りやひ
よきいんまり

いあしの秋りすれ 野の夕のす

りりあひんわとせぬしきりあひ
ら道のあははるのまよのせひの外
のうらりやうらりあはるしあ
しれきわぬくしきりしきりあひ
うらりわとせぬしきりあひ
やとりのあはれいしきりあひし
かきりかきりあひきりあひ

いあしの秋りすれ あはりのしの
うらりあひしきりあひ
あはれあひしきりあひ
うらりあひしきりあひ

さあめいんちんちんちんちんちんちん
いんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちん

のりりりりりりりりりりりりりりりり

中々のちんちんちんちん

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

人用とちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

のちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

幻

春の若き子孫にして早の源氏
の若く十二歳に正月より十二月まで
月ごとくさんびの月をとり金言を
いまして月をぬきもはまのしよるは乃
このりや月と月とて無款をたす
今休あつてむるなり

まはのりや月をぬきあつては。 春

まらえしや此やののあつぬきしよ

あつ日のあつ

せめてまじりし せめてあ

ちのくまひん

うのんハ雲はりんや びしりん

雲しせきりし ぬりハひこ

はまりやのほくやうりうら有

よの中のみくよのぬはく

の葉しうまろ雲やけなま

のれりり

火やけさうば せけのら

火やけハひとりやぬべ

おまりまぬ言而火桶

あ有おりり

いんききりりらめば 甲のま

まりちりり

まもえん 流前り女唇

りりこのけのぬ

ハきん一の流道

しきとあひらひ

うり流ん

しあやひ

のすら

まのしるし歩ねんしあしそんこ
るいまり 又選よ馬籠ねし書て

やないまじとありる麓いさのちとて
く見のこくふれとせらしいつさあれ
ほろりものつしやひきりねはうあ
ねはなごり事しくはろのまゆとら
いんのみかしくんさく中ねあじ
そんまのしるしねんしり

うへまじまじりて 別よりあ月々
りあ又ひいふりりしりはふあ
ほのしるしの事しあじ

くんさり ちんし歩うあ平生り
うりちるるりり

花の木とせり 梅の事り

まてんしねせあじと ちんふりせ
なぬあやひのりふらとすしり
らきんうあり

あぬくひまよらりて三月甲のすしり
やんいせいのあやい ちんいのも
のあせやういさな上のいさありほけ
てんゆくし院の中り又りじし
まのやいせしんありりりり

まはるくしんこのむくハ世のおれん
おの花ちのとりりて 此方よこく花こ
友はとらして 友付なつ下のれらさり
りまぬ様ハ 此梅梅のり三条院
して白まよりしんれのとりのりさ
よりハリけいさしてたりさるるの
ぬまの事よりとらるるハ三条院
あくのりやしてんぬまのやまこ
らしまをむむれのとりのり
言りまハやままらるるやこ
木ののりり せしはさるるりりり

のふんの花くうちけいぬまの
せりりやうのりりりりりりり
よま六歳りりりりり

あまらりりりりりりりりりりり
ままらりりりりりりりりりりり
人よりりりりりりりりりりりり

ぬくく じりりりりりりりりりりり
やふ又きんしのりりりりりりりり
のぬまよといぬくくりりりりり

倒乃父のり 除服の人より
じりんの 平箱のぬまよりりりりりり

三ヶ月より秋のふりハはのおりきて

とあるとあややさん 上のいん

歩きの庭よ今そのらと見よ

きしとすいりるらなむむむ

きんばゆいさま

よこのあまきと くりぬ殿のまを殿

くのいぬの ほんにんち

あらの花 時の花とこのはまの花

いりけいさくまのり

佛のあまきとまらりけい

花のあまきけいさくまのり

りてハのまひんち

あいのまら 三条院のあまき

あまきのいぬのり

花やあまきまら 山吹のら

のいぬのいぬのり

りりあまきのいぬのり

あまきのいぬのり

くしんち 女も香もじい

あまきのいぬのり

いぬのいぬのり

音はまら 花のいぬのり

まうりまはるはしてそくらのめろをば
ひりたいてはるはるはるはるの早ト
うらまらるはるはるはるはるはる
うはらるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはる

うの事乃をぬてせ　ひるはるのし
りよとやひひりひるはるはるはる
せせせせせせせせせせせせせせ
せせせせせせせせせせせせせせ
りふるらや　ひるはるのし
らの事乃をぬてせ　ひるはるのし

やうらるはるはるはるはるはるはる
きりまらるはるはるはるはるはる
つひ平せせせせせせせせせせ
やうらるはるはるはるはるはるはる

いふあてはるはるはるはるはるはる　人の
のしはるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはる
人とあて　きんしの事乃をぬてせ
をやりしうやせせ

やいふのよれはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはる

この事り世にやぶされはのぬまよ
くや又しこのゆひの印しるぬま
むしらすらの じいひのふのめ
ろこはらひぬしぬまぬま

やぬ方の人のふ ありのこのゆま
やけしむは世の人の事なり

かぬやうし 鈍^ち鈍^ちのうらうらう思
東うらぬ事ハぬ着うらうきしなり

侍りこのまゆしと 花山は皇ハ

殿^{むぎ}殿^{むぎ}女 小とくせうせうひてゆま
このゆまより花山しりせのゆま

後ハはほせりこのゆまゆまひて花や

りくゆゆまゆまゆまゆまゆまゆま
やゆりやとてゆのやとぬぬ

やゆりやゆま ありぬまゆまゆま
ハありのこのあゆのゆひりゆま

ゆまゆまゆまゆま

こいれりや ありの中ま版の言れゆ

位りゆせぬまゆまゆま

むまゆまゆま ありゆまゆまゆま

ゆまゆま ありゆまゆまゆま

ゆまゆまゆま

しやらぬよきことしやうしやうしやう

羽衣のしんききしやうしやう 徳氏の侍しやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

しんききしやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

あはれ事しやう

あはれ事しやうしやうしやうしやうしやうしやう

何をそのはらうせうとてあつらひ

おのれいふは都をまひりて

宮はひりて

歎く残燈宵聲

蕭々晴雨打窓声

いそぐはれは せうりめて用はひりて

そくきんいそぐはれしとてまをせむ

源氏のうしろの侍とてしむま

いそり用とてまひりてしむ

夕まりのうらみ

せうりは せうりの徳

ふはきくせうりの徳とて せの徳

やうにせうりはせうりの徳とて

とまりえあくせうりとハ夕まりの徳

めろくせうりきでせうり

きろくせうり夕まりの徳とて

せうりの徳とて せうり

いそぐはせうり

いそぐはせうり

いそぐの事 夕まりの徳とて

いそぐはせうり

いそぐはせうり

いそぐの徳とて

らうめはゆらゆらとゆらゆら
らうめはゆらゆらとゆらゆら
このまじりゆくはゆらゆら
ゆらゆら

いらいらとゆらゆら
ゆらゆらとゆらゆら

門あひらけ 子孫繁昌の事

まじりゆくはゆらゆらとゆらゆら

まじりゆくはゆらゆらとゆらゆら

いらいらとゆらゆら

いらいらとゆらゆら

まじりゆくはゆらゆらとゆらゆら

まじりゆくはゆらゆらとゆらゆら

いらいらとゆらゆら

まじりゆくはゆらゆらとゆらゆら

まじりゆくはゆらゆらとゆらゆら

まじりゆくはゆらゆらとゆらゆら

まじりゆくはゆらゆらとゆらゆら

まじりゆくはゆらゆらとゆらゆら

まじりゆくはゆらゆらとゆらゆら

部と書してゆらゆら 書かへは書かへはゆらゆら

まじりゆくはゆらゆらとゆらゆら

りよとらるるなりき

いしのりさる 子ま月らんはるりし

いふやうなる ちりさるるまきりいさるる人の

男いんぬやぬる洞りらん 甚のよ

あよ見まひしてしやいなるしやりや

ししやなり

ほしとちんぬるい 思ひまけのりさる

りしてこの 家のやまを思ひん日言の

きくふけのやまをいふていひりのも

見ぬよとハ家のやとりりかふはけ

けいさるひさりけりし さいま今いさ

りくはる有日言といふやまをさる

ほしとちんぬるい 思ひまけのりさる

いさるまきりいさるるいさるる

夕殿い 夕殿まは思消お孤燈挑畫未成眩

かりすらしハ揚美如の別とやなり

来とらるるまきりいさるる 雲ハかのこのゆか

あやのハ間おさるるいさるる

川のいんぬ人きり さいさるるいさるる

七夕のあまは雲乃 別の夜ハ紫らして別けり

織女牽牛 雙扇扇年と一度遇河来

莫言天上 稀相見猶勝人間去不回

とらふかきしやうよし

風のきさく 秋ハ秋夕同言もたうし林

のきのうらもあつりや

朔日あり 八月ふらひまらうり

しやう日 用馬乃事なり

あまのいよさのわい菊のゆさのわいしあ

のほりまはらうむらさきのふくろあ

まひあつりあといんあつり

かりししき 五林月よりあけあはかり

かしく袖ひほりよりあかりき

うたやまうく 衣ハほりよりにあぬあつり

ちてしよふまらうり まぬりハむし事く

依樹者よまらうりしよさもあつりあ揚美

れとあつりあつり樹あハあつりまらうりあ

しよいあつりあつりあまぬりハあつり

ししきあつりあつりあつりあつりあつり

とあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあ

明節會ハハ山藍とてあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあ

の流しをりぬ中ね苑人せおすしのよき

い舟の舟りり 日くしのぬきぬのい

ま人のまのありに 日けせきとていハ

日暮のうくしとせきり日暮はくく

似て糸と絡て付りいさくくよとハ内

いさりぬよらさくりよとありや

とくせはさりぬくこい まの何れもい

いれとくうしてははきてぬりんとり

やまハ行 日暮ハ中をぬれ人よ見えぬ

しきくもればくはまていせり

ふとせの ふりくともまという水たの

あころあせのふとまけり 月てを

まよあせままいれとえぬりぬい

とやんえありり

中をうぬひて 月の印りかき

とての山越り人と 佐とハもたのい

山はこゆと又路よあくと月けい

はよりく ぬきく別ぬるすよとく

てらるしとぬいし

書つめて月くちひりし ことつていハ

集してやりし雪井のハハ人の

クのくありのよ

くく名のうのよく 佛名夜 初月 後夜

浄導師着礼盤唱佛名平錫杖

亦第之夜錫杖佛名八寶飛ぶ十

年始之改天長七年

引正多りしん くらは今んを紙云とま

すわろき綿し

盃有し帯の化法より也 禁中佛名方三

夜柏梨初盃云事首ん近中将和氣

共以栲俣回柏梨店寄ん近府官人

の酒料ふりてとり乞て佛名此夜

た近府母く初盃の南へ

録有しぬらん 延喜十九年佛名導師

雲晴律師湯所阿古也

天曆四年佛名導師浄蔵之礼く

同白簷中給仰衣

みやりく文うりて 香火一燈灯一盃白

み夜礼佛名経と云マしとくより

由くや導師の双身しし

ままきの命やまらん 佛名よ八派の

きゆりしよらんよ命やまらんよ八派ん

好くや導師をいみ人りりし

ふ世のまらんよ花く 導師の命の礼

きり香しきせめてハハハの多きり
ありしころありりり

この目らして見る 導師お沙對面

のさめしおらるゝお多しりりゆり
りもこりりりりりせはも白くしりり

お花のこしりり

りや花らんよまたりりりりりりり

らよハ花やらのりりりのまはぬく
すありてさるまハとるし花やらの陰
氣陽氣と通かく漢流本明たよちり
この世にさるまやらのりりりりりりり



